

広がれ人権の輪

いのち・愛・人権

学び、共感し、つながること

みなさん、鳥取市解放大学をご存知ですか？鳥取市解放大学は、部落差別をはじめとするあらゆる差別をなくし、人権尊重都市の実現を図るための指導者養成を目的に開講しています。

このたび、10月6日、第8期生となる53人が卒業を迎えました。

解放大学の歩み

私たちの社会では、差別はいけな
いという意識は広まってきたもの
の、差別に対する正しい知識の習得、
ましてや差別問題の解決に向けた実
践となるとまだまだ十分でないのが
現状です。

このような中、鳥取市解放大学は、
あいつぐ差別事件に、職場や地域で
的確な対処、指導ができるよう、部
落問題解決に向けた指導者を養成す
るため、平成3年に開講しました。

その後、部落問題を基軸に、さま
ざまな人権問題へと取り組みを広げ
ながら多くの卒業生を送り出してき
ました。

第1期生51人の卒業から、今回の
第8期生の卒業まで、400人を超
える卒業生が誕生し、その多くが、
地域、そして職場の人権啓発の推進
員として取り組みを続け、現場の第
一線で中心的な役割を果たしていま
す。

羽ばたけ第8期生！

受講生は、解放大学が掲げる、気
づき、見つめ直し、新たな自分づく
りを目指し、2年間学習を続けて
きました。

講義の中で受講生は、さまざまな

8期生のレポートから

◆差別を禁止する法律、罰則がないから「この程度のことなら問題ない」「犯罪ではないからいい」という意識につながっているのではないかと。差別をなくすためには、差別を禁止する法律を早期につくることが必要。法律（ルール）によりシステムが変わり、それは人々の意識を変える。

◆私の地域には受け継いできた古きよき伝統が多くあるが、人権の視点から変えていきたい課題（慣習）もある。息苦しい世間という社会は私自身が地域の一員としてつくっていることも自分の課題だと思っている。市民のだれもが身近な地域で人権を学び、行動できる反差別・人権のサークルが、どの地域にも必要と思うし、つくりやすくしていくシステムも必要だと思う。そして、それらがネットワークで結ばれることで市民生活に広がり、差別のない社会づくりにつながると思う。

◆人権問題の啓発という点で、マスメディアが果たす役割もとても重要だと思う。毎日10分でも差別問題の放送を流すことによって、正しい知識や、実際に差別されている方々の生の声などを全国に届けられることができれば、もう少しみんなの意識もかわっていくのではないかと。

人権問題の現状と課題、そして講師自身の生き様から、厳しい差別の現実とその差別をなくすための取り組みの重要性やすばらしさを学びました。また、現地学習では、講義で学んだ実例を目の当たりにし、差別の現状を肌で感じました。

そして、これまで学んできたことを基に、自分の思いや考えを自分の言葉で語ることの大切さや、自らの課題と真正面から向き合い解決策を見いだすといった自己啓発学習を行いました。

その集大成として仕上げたのが、「差別のない社会をめざして」私の提言」というレポートです。このレ

ポートには、受講生一人ひとりが心から願う「差別のない社会」の実現に向けた強い思いが込められています。

8期生は、これらの提言を胸に、新たなスタートを切り、職場へ、地域へ羽ばたき、人権の輪を広げてくれることでしょう。

そして、みなさんも一緒に差別のない社会の実現に向けて、できることから始めてみましょう。

問い合わせ先 市役所本庁舎人権推進課 ☎(0857) 2013144

※左記のとおりレポートの一部分をご紹介します。